

第1回男山地域まちづくり連携協定 年次報告会の開催

KS
SP 関西大学
戦略的研究基盤
団地再編
リーフレット
-Re-DANCHI leaflet-

文部科学省 私立大学 戦略的研究基盤形成支援事業
『集合住宅“団地”の再編（再生・更新）手法に関する技術開発研究』

MARCH 2015
VOL. 166



第1回男山地域まちづくり連携協定 年次報告会の開催

平成25年10月に京都府知事の立会いのもと、八幡市・UR都市機構・関西大学による「男山地域まちづくり連携協定」が締結された。その中で交わされた4点の連携・協力事項（(1)次世代を育むまちづくりとして、子どもが豊かに育つために、地域で子育てを支えあい、ともに育ちあう、分かちあう環境づくりの導入・確立、(2)多世代が根を張るまちづくりとして、高齢者が住み慣れた地域で住み続けられることを目指した「地域包括ケア」の確立、(3)地域に活力を呼び戻すまちづくりとして、地域及び団地が連携した新しい機能及び活動の導入・確立、(4)住民が主役となるまちづくりとして、地域の多様な活動主体の育成及び活動ステージの確保）の締結後1年間の進捗状況の報告会として、平成26年11月27日に「第1回男山地域まちづくり連携協定 年次報告会」を開催した。報告の内容としては、八幡市より「協定の経緯と男山地域再生基本計画の概要」、「地域包括ケアの確立」について、京都府より「健康福祉分野を中心とした男山地域再生プロジェクト」、「男

山地域 安心・安全によるコミュニティ創造プロジェクト」について、UR都市機構より「子育て支援事業の概要」について、関西大学より「男山地域におけるコミュニティ活動支援（だんだんテラスの活動）」についての報告・説明がおこなわれた。また4者連携による今後の展望についての意見交換もおこなわれ、この1年間で子育て支援や拠点整備等、大きな成果・前進があったこと、今後も連携協定を基軸として連携を進めていくことを確認した。

【第1回男山地域まちづくり連携協定年次報告会 次第】

1. 開会挨拶
2. 協定の経緯と男山地域再生基本計画概要
3. 子育て支援事業
4. 地域包括ケアの確立
5. コミュニティ活動支援
6. 男山地域 安心・安全によるコミュニティ創造プロジェクト
7. 意見交換会
8. 閉会挨拶

1. 開会挨拶

八幡市の丹下副市長より、これまでの連携への謝辞と今後の協力依頼が述べられた。



八幡市丹下副市長

2. 協定の経緯と

男山地域再生基本計画概要

八幡市の武用課長より、男山地域まちづくり連携協定締結の経緯と、男山地域再生基本計画の策定についての報告があった。

■男山地域まちづくり連携協定締結の経緯

- ①平成17年、男山地域の施設老朽化が課題となっていた八幡市において男山地域活性化基本構想を策定した。
- ②平成21年、UR都市機構とも協議のうえで、八幡市住生活基本計画を策定した。男山地域では建て替えでなく団地再生（集約化）を図る方向性を確認した。
- ③平成22年、八幡市男山地域再生庁内検討委員会を設置した。有識者として京都大学の高田光雄教授の参加を得た。
- ④平成23年、高田教授の勧めもあり、同年、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（「集合住宅“団地”の再編（再生・更新）手法に関する技術開発」）に採択された江川直樹教授に協力を依頼。
- ⑤平成24年、京都府「まちの課題・チーム型解決事業」を活用し、まちの仕事人と共に地域課題整理を進める中で、八幡市・京都府・関西大学が戦略会議を設置。
- ⑥平成25年 戦略会議にUR都市機構が加わり連携協議会を設置。同年10月に男山地域まちづくり連携協定を締結。
- ⑦平成26年 連携協定をベースに、人々が集う場所の不足を解決するため、関西大学の提案で、

まちづくりの全てを支える拠点である「だんだんテラス」を設置。

■男山地域再生基本計画の策定

平成26年3月に関西大学への委託研究を通じて今後の男山地域におけるまちづくりの基軸となる男山地域再生基本計画を策定した。本計画の特徴としては、社会情勢に合わせて弾力的に見直していけるよう、計画期間を設定しておらず、1つの活動が起点となって次の活動を生むというプロセスに重点を置いている。また、男山地域活性化基本構想から7つの基本方針を引き継いでおり、活動が住民と行政が一体となって取り組むこととしている。



八幡市 武用課長

3. 子育て支援の取り組み

UR都市機構の田邊チームリーダーより、子育て支援事業の概要についての説明があった。

プロジェクト名は「ダンチde コソダテ in 男山団地」とし、まち全体の子育て環境の再編を目指したものである。

プロジェクトは、「子育て住まいリノベーション」と「おひさまテラス開設」の2事業からなる。

■「子育て住まいリノベーション」について

- ・スローガンは「のびやかに暮らせる団地」
- ・内容は「子育てに最適な住空間（間取り）の提案」
- ・現在、「のびのびしたプランニング」「見守り、感じられるプランニング」の2

男山の将来目標

地域とともに元気な暮らしができる、住みたい、住み続けたい男山



男山地域再生基本計画の策定

住戸を提案している。

■「おひさまテラス開設」について

- ・地域の子育て支援施設の開設と運営をおこなっている。
- ・保育士資格を持った人材を配置。
- ・子供と親と一緒に遊ぶスペース「遊びの広場」を設置。
- ・子どもの一時預かりと教育を一体化した「一時預かり事業」を設置。（八幡市ファミリーサポート事業を活用している）
- ・関西大学が男山団地A地区の各種施設の場所をまとめた地図や、



UR都市機構 田邊チームリーダー

子育て世代向け「子育ての住まいリノベーション」 「のびやかに暮らせる団地」

■のびのびしたプランニング
現状の住宅の魅力である、南北の抜けを意識しながら3つのコンセプトで計画。
① 大きな一つの空間を必要に応じて分けれる
② 気持ちよく立てるキッチン
③ 明るく気持ちのいいサニタリールーム

■見守り、感じられるプランニング
「キッチンから見える。」「気配を感じられるひとつながりの空間」など、少し離れた場所に居ても、見守ったり、気配を感じられるような空間構成となるように計画を行いました。

地域子育て支援施設 おひさまテラス

おひさまテラスは、次の2つの事業を往に運営します。

■遊びの広場「おひさまテラス」

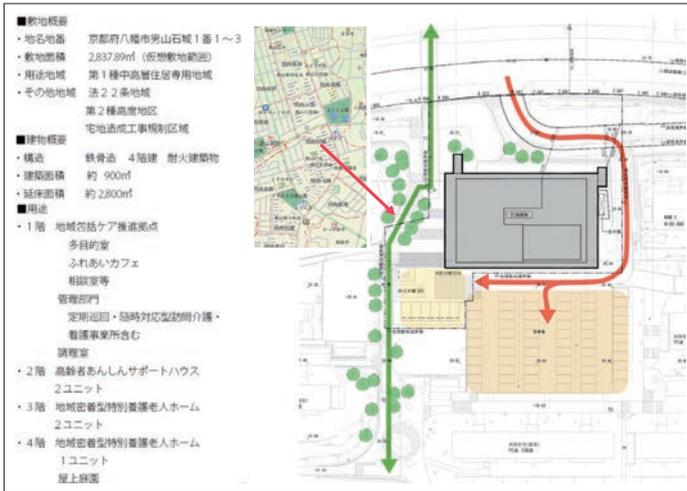
■一時預かり事業「おひさまテラスファミリーサポート」

また、子育て支援センターとも連携し、地域の子育てママの不安にも応えられる体制づくりを行っています。

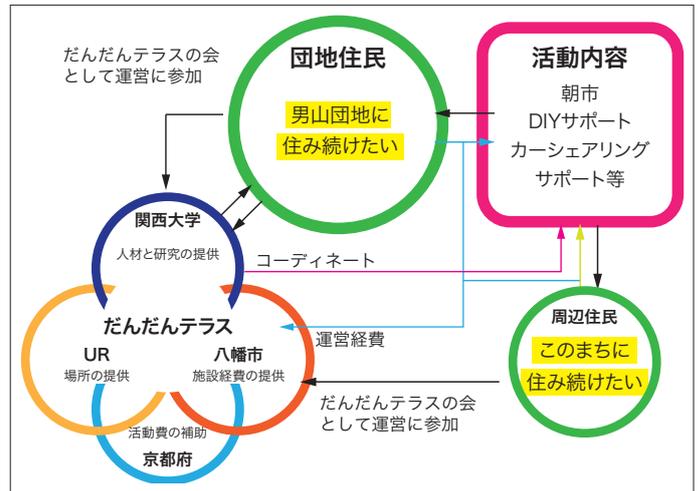
遊びの広場 おひさまテラス
子どもと親と一緒に遊ぶ、遊びの広場です。おひさまテラスのプログラムを通して、集団での生活も経験出来る場所づくりを行う予定です
「お昼寝タイム」など独自のプログラムでママのリフレッシュの時間も。また、地域の方も気軽に立ち寄れる場所を目指し、運営します。

一時預かり事業 おひさまテラスファミリーサポート
「就園前にちょっとみんなとの生活体を。」そんなパパママのニーズや、「急な冠婚葬祭でどうしても数時間預かって欲しい。」などにも対応します。ただ、預かるのではなく、子どもの成長の場となるような一時預かり事業を目指し、運営します。

子育て支援プロジェクトの内容



高齢者関連複合施設の概要



だんだんテラス運営の連携体制

おひさまテラスの活動についてまとめたパンフレットを作成。

- ・上記事業以外のものとして、UR都市機構において入居者向けには子育て割を導入。

4. 地域包括ケアの確立

八幡市の辻井主幹より地域包括ケアの確立についての説明があった。

- ・連携協定第2条2~3項および八幡市高齢者健康福祉計画・介護保険事業計画をベースに地域包括ケア複合施設の整備を展開中。
- ・同施設は各種機能を備えた高齢者関連複合施設（4階建て建築面積900平米、延床面積2800平米）。
- ・運営は社会福祉法人若竹福祉会。
- ・デザインの協議はUR都市機構・関西大学・若竹福祉会・八幡市でおこなっている。
- ・竣工は平成27年秋（予定）。



八幡市 辻井主幹

5. だんだんテラスの取り組み

関西大学・関西大学大学院修了生の辻村氏（地域コーディネーター兼京都府公共員）より、コミュニティ活



辻村氏（地域コーディネーター兼京都府公共員）

動支援について、概ね以下の通り説明があった。

- ・平成25年に中央センター商店街の空き店舗に住民が気軽に集える場所「だんだんテラス」をオープンした。
- ・だんだんテラスの運営について、立ち上げ時は関大生が行うが将来的には住民運営に移行予定。
- ・だんだんテラス開設前から住民とのワークショップを行う中で、課題である「集う場所の不足」が浮上したことが開設のきっかけとなった。
- ・だんだんテラス運営のため任意団体「だんだんテラスの会」を設置。会員は自治会、商店会、京都府、八幡市、UR都市機構、関西大学等で構成している。日々の活動やイベントの他、月に一回運営主体の住民移行について討議している。
- ・会の主要な活動は「拠点運営」「まちづくりに関する情報収集と発信」「まちづくりに関する課題解決」など。

だんだんテラスの会の具体的な活動例は以下の通り。

- ・地元農家の協力を得た朝市。
- ・各週金曜日の dang dang bar。
- ・毎朝10時のラジオ体操。
- ・住民による各種教室や府市主催の講座でのだんだんテラス内の場所の貸出。
- ・各種ワークショップ（住民や市の主催）の開催。

- ・活動を通じて集まった住民の声や、日々の活動について、毎月発行のだんだん通信に集約して全戸配布。
- ・カーシェアリング社会実験（だんだんテラス北側に設置）。
- ・居住者による自主的な住戸改善サポートとして、DIYラボをだんだんテラス横の空き店舗を利用し期間限定で開設。
- ・各種活動を通じて団地住民同士の交流が拡大。団地および地域を考えるきっかけとなる場となっている。

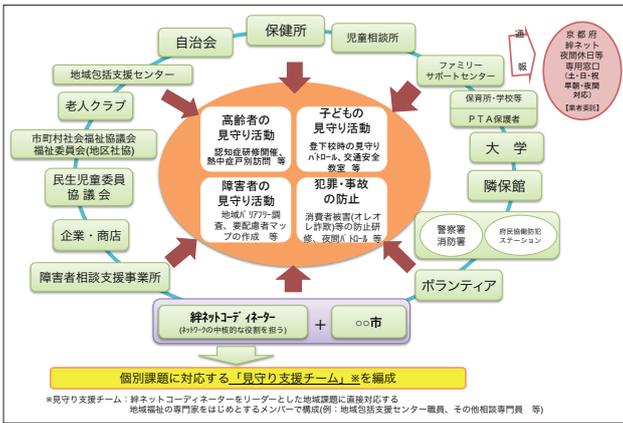
6. 健康福祉分野を中心とした男山地域再生プロジェクト

京都府の余田高齢社会対策監より、「絆ネットワーク構築」についての説明があった。

- ・京都府における高齢者対策支援事業として絆ネットワーク構築支援事業を設置。
- ・高齢者、障害者、児童の見守り、生活支援の補助を目的としている。
- ・各市町村における見守り団体のネットワーク構築を目指して活動を行っている。
- ・男山地区においてはB地区で団地全体のネットワーク構築を進めている。
- ・地区内の各団体のネット



京都府 余田高齢社会対策監



「犯パトロール」、「まちの公共員（辻村氏）を設置」などがある。

- ・特にまちの公共員の活動については地域の抱える課題への対応として、「まちづくり井戸端会議の開催」、「コミュニティビジネスを生み出す仕組みづくり」、「地域住民の自主的運営移行への仕組みづくり」等に期待を込めている。

る。

- ・団地の再生に取り組むには自治体内の横断的な連携が必要であり現在は実現している。
- ・4者連携の1年目はスピード感を持って取り組めておりまちづくりの新たなモデルである。
- ・新しいものを作るのではなく既存の住民により良い生活を送ってもらうことが最重要。
- ・現在住んでいる住民が自分自身で工夫を重ねながらより良い暮らしを模索しなければならない。

なお、前田副学長からは関西大学として、教育・研究・社会貢献を實踐できる場として4者連携を軸としてWIN×WINの関係ができるよう支援したい旨併せて発言があった。

絆ネットワークのイメージ

ワーク構築により見守り隊事業を開始。

7. 男山地域 安心・安全によるコミュニティ創造プロジェクト

京都府の梅原副部長より、安心・安全によるコミュニティ創造プロジェクトについて、概ね以下の通り説明があった。

- ・安心安全対策を目的として自治会やNPO活動の活発化を図るプロジェクトである。
- ・具体的な活動として「自治会への加入促進」「消費生活センターの出前講座」「地域力再生交付金によるだんだんテラスの会や子育て支援団体への活動支援」、「防



京都府 梅原副部長



男山地域 安心・安全によるコミュニティ創造プロジェクト打合せの様子

8. 意見交換会

今後の展望として、関西大学 江川直樹教授をコーディネーターとして意見交換を行った。主な発言内容は概ね以下の通りであった。

- ・多世代が住むコミュニティバランスの維持が重要であり、そのためには子育て世代の呼び込みと高齢者が安心して暮らせるまちづくりが必要である。
- ・4者連携によってまちづくりの仕組みを整えていかなければならない。
- ・UR都市機構が持つストックをいかに活用するか工夫しなければならない。
- ・地域包括ケアを展開していることを地域住民にも周知する必要がある。



意見交換会の様子

9. 閉会挨拶

UR都市機構の田中副支社長より、閉会挨拶として、1年間で子育て支援や拠点整備等の大きな前進があったことについて謝辞が述べられた。併せて、今後も連携協定を基軸として連携を進めることについて協力依頼があった。



UR都市機構 田中副支社長

『第1回男山地域まちづくり連携協定 年次報告会の開催』

発行：2015年3月

八幡市、関西大学、UR都市機構、京都府
 関西大学 戦略基盤・団地再編プロジェクト
 (関西大学先端科学技術推進機構 地域再生センター)
 関西大学 社会連携部 地域連携センター

記録・作成：宮崎 篤徳 (関西大学 先端科学技術推進機構)

本リーフレットは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「集合住宅「団地」の再編(再生・更新)手法に関する技術開発研究(平成23年度~平成27年度)」によって作成された。

関西大学
 先端科学技術推進機構 地域再生センター
 〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号
 先端科学技術推進機構 4F 団地再編プロジェクト室
 Tel : 06-6368-1111 (内線:6720)
 URL : http://ksdp.jimdo.com/